

17 デジタルタトゥーとは？子どもの未来を守る投稿の責任

「デジタルタトゥー」という言葉をご存じでしょうか？これは、インターネット上に一度投稿された情報が、半永久的に残り続けることを指します。まるでタトゥーのように消すことが難しく、将来にまで影響を及ぼす可能性があるのです。特に子どもに関する投稿は、保護者のちょっとした行動が、本人の人生に思わぬ影響を与えることもあります。

たとえば、幼い頃の写真や動画を SNS に投稿することは、成長の記録として微笑ましいものです。しかし、本人の同意なく公開された情報が、後に本人の恥ずかしさや不快感につながることもあります。さらに、名前や学校名、習い事の場所などが含まれていると、個人情報の漏えいや犯罪のリスクにもつながりかねません。

また、子ども自身が投稿した内容も、将来の進学や就職に影響する可能性があります。過去の発言や写真が検索され、評価の対象になる時代です。だからこそ、保護者は「投稿の責任」を意識し、子どもにその重要性を伝える必要があります。

家庭でできることは、まず「投稿前に確認する習慣」をつけること。「この写真は誰が見る？」「本人はどう感じる？」といった視点を持つことで、無意識のリスクを減らせます。また、子どもが自分で投稿する際にも、「一度ネットに出したら消せない」という意識を持たせることが大切です。

インターネットの便利さの裏にあるリスクを理解し、慎重な発信を心がけることで、子どもの安心と可能性を守ることができます。まずは今日、家庭で「投稿のルール」について話し合ってみませんか。

18 個人情報ってどこまでが危険？家庭でのリスク管理

「個人情報」と聞くと、名前や住所、電話番号などを思い浮かべる方が多いでしょう。しかし、インターネット上ではそれ以外にも、子どもの写真、学校名、習い事の場所、SNS のユーザー名など、さまざまな情報が“個人を特定できる手がかり”になります。こうした情報が無防備に公開されていると、思わぬトラブルや犯罪に巻き込まれるリスクが高まります。

たとえば、SNS に投稿した写真に制服や通学路が写っていると、学校や生活圏が特定される可能性があります。また、誕生日や家族構成なども、パスワードの推測やなりすましに悪用されることがあります。子どもが無意識に発信してしまう情報も多いため、家庭でのリスク管理が欠かせません。

保護者としてまずできることは、「何が個人情報になるのか」を子どもと共有することです。「顔写真だけでなく、背景やコメントにも注意が必要なんだよ」と具体的に伝えることで、子ども自身が意識を持つようになります。また、SNS の公開範囲を確認し、必要に応じて非公開設定や友達限定の投稿に切り替えることも有効です。

さらに、家庭内で「投稿前に確認する習慣」をつけることも大切です。「この写真、誰が見るの？」「学校名が写ってない？」といったチェックを子どもと一緒に行うことで、自然とリスク管理の力が育まれます。保護者自身も、子どもの情報を投稿する際には、本人の気持ちを尊重し、許可を取ることを忘れないようにしましょう。

個人情報の管理は、子どもの安全を守るための基本です。便利なネット社会だからこそ、家庭での小さな配慮が、大きな安心につながります。